



令和7年1月16日  
第 509 号  
新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

## よさに目を向ける～よい1年になりますように～

校長 飯塚 進

あけましておめでとうございます。令和7年がスタートしました。よりよい学校を目指し、職員一同力を合わせて教育活動を推進いたします。保護者、地域の皆様も、引き続き御支援、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

先日の始業式で、子どもたちに冬のある一日の天気予報図を見てもらいました。冬になるとよくある西高東低の気圧配置で、日本海側の地域はほとんど雪マーク、太平洋側の地域はほとんど晴れマークの天気予報図です。そして、子どもたちに、次の質問をしました。

「みなさんは、AとBのどちらの気持ちですか。」

A (晴れる日が多い) 太平洋側がうらやましい。

B (雪遊びができるから) 雪が降ってうれしい。

子どもたちの様子を見ると、AもBもたくさん手が挙がりましたが、どちらかと言えばBが多かった印象です。さすが雪が好きな子どもたちですね。ちなみに大人はほとんど

Aに手を挙げたようです。

当然、どちらが正解ということではなく、どちらの気持ちも共感できることだと思います。ただし、「うらやましい」という感情と「うれしい」という感情だけを比べれば、「うれしい」と思えることの方が幸せだと感じます。自分の力ではどうしようもないことであるならば、他をうらやむより、現状の中に「よさ」を見つけた方がよいのではと思います。

子どもたちには、自分のよいところ、他の人のよいところ、自分がいる場所や状況のよいところをたくさん見つけることが、楽しさや幸せにつながることも知ってほしいと思います。

しかしながら、ここ数日の雪の降り方は厳しいものがあり、さすがの子どもたちも単純に雪を楽しむという感情にはなれないかもしれません。特に登下校の大変さは間違いないことでしょう。そうであっても、吹雪の中を歩み続ける子どもたちの中に、吹雪を知らない子どもたちにはない「たくましさ」が培われていることも事実だと思います。

ここで生活することが、「雪遊びができるよさ」と「雪の大変さによって培われるたくましさ」と子どもたちにとってはよいことが多いと信じたいと思います。